

(公印省略)

14病防第1号の2
平成14年5月1日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

このことについて、平成14年度病害虫発生予報第2号(5月)を発表したので送付します。

平成14年度病害虫発生予報第2号(5月)
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
水稻	いもち病	-	やや少ない
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	やや少ない
	萎縮病	-	やや少ない
	ヒメトビウンカ	やや少ない	やや少ない
	縞葉枯病	-	やや多い
	イネミズゾウムシ	-	-

【普通作物 - 水稻】

1 いもち病

(1) 予報の内容

発生量：平成よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年の穂いもちの発生量は、平成より少なかった。

イ 気象予報では5月の平均気温は高く、降水量及び日照時間は平成並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 苗いもちが発生した場合は、ビーム水和剤75の500～1,000倍液を1箱当り500ml灌注する。

イ 補植用の置き苗は、葉いもちの伝染源になりやすいので早めに処分する。

2 萎縮病（ツマグロヨコバイ）

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ萎縮ウイルス保毒虫率は平均 0.11%（平年：0.84%、前年：0%）であった（第1、2表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ツマグロヨコバイの越冬後の発生量は平年よりやや少なく、前年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

第1表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス（RDV）保毒虫率¹⁾

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
前原市末永	190	0	0	- ²⁾	-
宗像市河東	190	0	0	-	-
久留米市太郎原	190	0	0	-	-
朝倉町菱野	190	1	0.5	0	0
田主丸町益生田	190	0	0	0	0
山川町北関	190	1	0.5	0	0
黒木町木屋	190	0	0	0	0
北九州市小倉南区曾根	190	0	0	0	0
岡垣町黒山	190	0	0	-	-
行橋市長井	118	0	0	0	0

¹⁾ 本年はエライザ法、前年及び前々年は幼苗接種法による検定

²⁾ 「-」は実施せず

第2表 ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス（RDV）保毒虫率の年次変動

年次	検定地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1992	15	8	2,555	0.62
1993	17	8	3,289	1.26
1994	7	4	1,186	3.54
1995	11	3	1,863	1.93
1996	7	1	1,317	0.08
1997	7	2	989	0.40
1998	8	2	972	0.50
1999	9	1	1,179	0.08
2000	10	0	1,252	0
2001	10	0	1,471	0
本年	10	2	1,828	0.11
平年				0.84

本年はエライザ法、2001年までは幼苗接種法による検定

3 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア エライザ法による検定の結果、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平均 1.20%（平年：0.35%、前年：0.65%）であった（第3、4表参照）。

イ 4月5半旬調査の結果、ヒメトビウンカの越冬後の発生量は平年よりやや少なく、前年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

保毒虫が確認された地域では、箱施薬剤による防除を実施する。

第3表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス（RSV）保毒虫率¹⁾

採集場所	検定虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率(%)		
			本年	前年	前々年
前原市末永	26	0	0	- ²⁾	0
宗像市河東	128	0	0	0	0.8
久留米市太郎原	159	3	1.9	-	-
朝倉町菱野	24	1	4.2	-	-
宝珠山村福井	49	0	0	-	-
田主丸町益生田	190	5	2.6	0	1.1
山川町北関	41	1	2.4	3.2	1.6
黒木町木屋	95	0	0	0.6	0
北九州市小倉南区曾根	32	1	3.1	-	-
岡垣町黒山	128	2	1.6	0.5	0
行橋市長井	190	0	0	-	-
豊前市三毛門	25	0	0	0	0

¹⁾ 本年はエライザ法、前年及び前々年はラテックス凝集反応法による検定

²⁾ 「-」は実施せず

第4表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス（RSV）保毒虫率の年次変動

年次	検定地点数	保毒虫確認 地点数	検定総虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
1992	15	4	2,524	0.28
1993	13	4	2,588	0.35
1994	7	1	1,300	0.08
1995	11	4	2,196	0.32
1996	9	2	1,750	0.29
1997	10	1	1,582	0.06
1998	9	5	1,568	0.57
1999	7	1	777	0.41
2000	8	3	873	0.45
2001	8	3	769	0.65
本年	12	6	1,087	1.20
平年				0.35

本年はエライザ法、2001年まではラテックス凝集反応法による検定

4 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年よりやや早い

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市の予察灯で4月29日に初飛来を認めた（筑紫野市予察灯の平年初飛来日：5月6日）。

イ 気象予報では5月の平均気温は高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

間断灌水や浅水管理を実施し、成虫の定着を抑制するとともに被害の回避を図る。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ アブラムシ類 1	やや少ない 並 並	やや少ない 並 並
ナシ	黒星病 アブラムシ類	並 2 並	並 2 並
ブドウ	黒とう病	やや多い	やや多い
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ 1	- - 並	並 並 やや多い
ウメ、ビワ、モモ、スモモ、ナシ、カキ、カンキツ等	カメムシ類	多い	多い

- 1 発生現況及び発生予想は、前年までの9か年の平均値を平年値とした。
- 2 一部地域やや多発

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、旧葉の発病葉率は平均0.1% (平年：0.5%、前年：0%) であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、寄生葉率は平均9.1% (平年：6.3%、前年：6.5%) であった。また、発生ほ場率は38.9% (平年：31.4%、前年：33.3%) であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液がかかるよう十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

イ 防除にあたっては同一系統薬剤の連続使用は避ける。

3 ナシの黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並（一部地域やや多い）

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、新梢の発病葉率は平均0.3%（平年：0.05%、前年：0.01%）、発病果率は平均0.9%（平年：0.8%、前年：1.3%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

昨年の耐性菌の検定結果では、E B I剤に薬剤感受性の低下が認められるので、他の系統の薬剤とのローテーション散布を行う。

4 ナシのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、新梢の寄生葉率は平均1.4%（平年：1.7%、前年：2.4%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ワタアブラムシについては、散布薬剤の効果低下が認められた場合は、他系統の薬剤に切り替える。

5 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、発病葉率は平均3.7%（平年：0.6%、前年：0.4%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

罹病葉、罹病新梢は摘除し二次伝染を防ぐ。

6 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年（前9か年平均）・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬の調査の結果、寄生新梢率は平均3.2%（前9か年平均：3.8%、前年2.1%）、発生ほ場率は平均75.0%（前9か年平均：39.0%、前年46.9%）であった。

イ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 現在の令期は3令から成虫が主体なので、防除を行っていないところでは早急に防除を行う。

イ 本虫は、薬液がかかり難い場所に多く寄生しているので、十分な薬量を使って散布むらのないよう防除する。

ウ 開花前の防除はミツバチに影響が少ない薬剤を散布する。

7 ウメ、ビワ、スモモ、モモ、ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 越冬量は平年・前年より多かった。(平成14年4月11日付病害虫発生予察注意報第1号参照)

イ 県農業総合試験場内の予察灯では、4月5半旬迄の総誘殺数はチャバネアオカメムシの誘殺数が123頭(前年：0頭、平年：1頭)、ツヤアオカメムシの誘殺数が199頭(前年：0頭、平年：0.5頭)であった。また、チャバネアオカメムシの集合フェロモンへの4月5半旬迄の総誘殺数は498頭(前年：3頭、前4か年平均：13頭)であった。

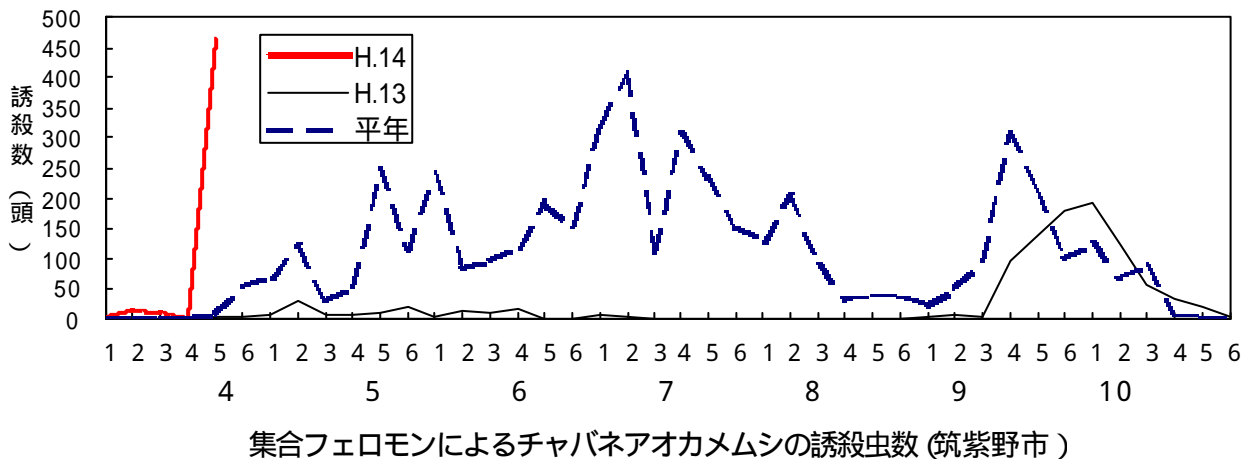
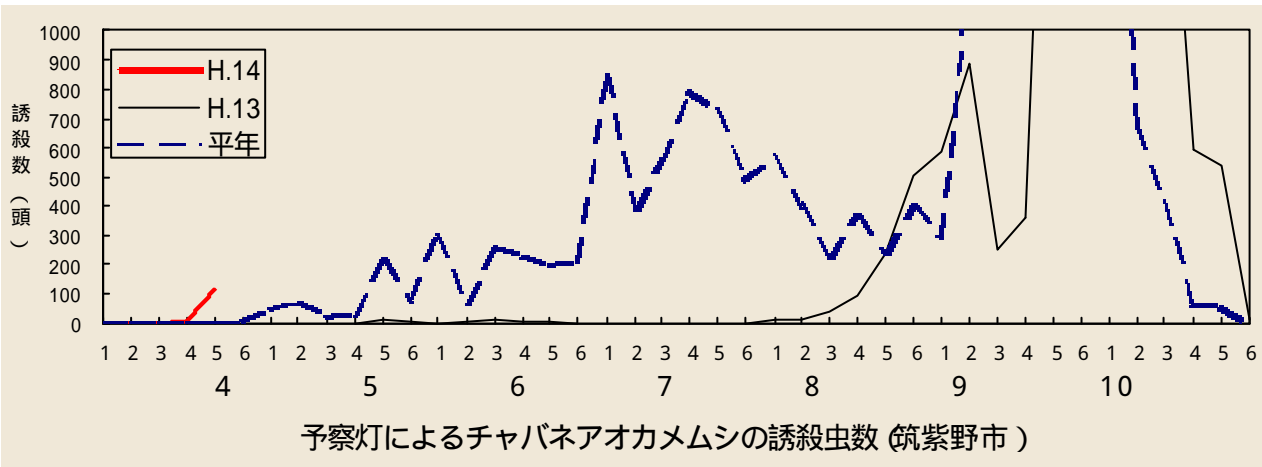
ウ 予察灯へのチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの初飛来は4月7日で過去38年間で最も早い。

エ 一部のカキ園ではクサギカメムシによる落蕾がみられている。

オ 5月の気象予報では、平均気温は高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、樹種によって使用できる薬剤が異なるので、注意する。



【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	少ない 並 並	やや少ない 並 並

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月4半旬調査の結果、寄生葉率は平均0.3%(平年:4.1%、前年:1.2%)で、50葉当たり寄生虫数は平均0.1頭(平年:10.3頭、前年:2.8頭)であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の見られない茶園もあるので、発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 防除薬剤は「平成14年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照し、薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける(以下の害虫についても同様)。

2 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月4半旬のたたき落とし法による調査では、発生は認めなかった(平年:0.03頭、前年:0.01頭)。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生の見られない茶園もあるので、発生状況をよく観察し、たたき落とし法(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月4半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.2頭(平年:0.3頭、前年:0.3頭)の発生であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生の見られない茶園もあるので、発生状況をよく観察し、たたき落とし法(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年)	発生予想 (平年)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	並 やや多い やや少ない 並 並	並 やや多い やや少ない 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ *	やや多い	やや多い

- ・ * はフェロモントラップによる誘殺虫数である。
- ・ アスパラガスは、前年より調査のため、前年値との比較である。

1 アスパラガスのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均1.9%（前年：0%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

2 アスパラガスのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均3.1%（前年：10.6%）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

3 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、寄生株率は平均16.9%（前年：16.7%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

4 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 福岡市、朝倉町（2ヶ所）の4月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は平均19.3頭（平年：12.9頭、前年：12.8頭）であった。

イ 気象予報では、5月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

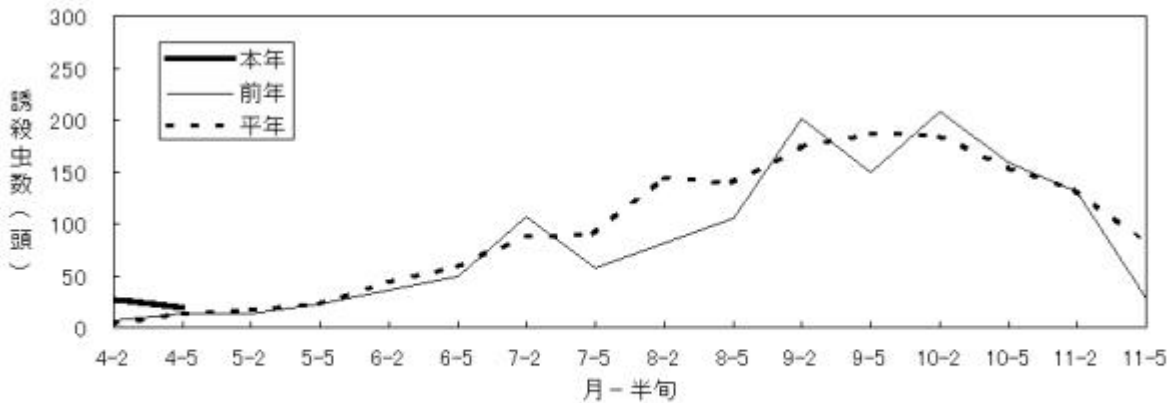
ア 今年では、調査開始時から誘殺虫数が平年より多く発生時期も早いと予想され、今後の発生動向に注意が必要である。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

オ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移
(県内3か所平均)

5月の気象予報（1か月）

（予報期間4月27日～5月26日）

2002年4月26日
福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 4月27日～5月3日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 5月4日～5月10日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 5月11日～5月24日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
18.5	141.3	189.2	17.2	18.2	19.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）